

第六十九回県俳句大会選考結果

特別選 「当季雑詠」

◎人 位

水切りの石はね返す秋の水

高野ムツオ 氏 選

弘 前 葛西 栄子

【評】秋の水の力が石をはね返すというところえ方は、なかなかできない。音までも聞こえそうな句。

◎佳 作 (20句)

縄文の掘りつぐ遺蹟木の実落つ

青 森 池野 實

林檎熟る岩木嶺巒を深くして

青 森 中島 五郎

みちのくの何かもの言へおんこの実

弘 前 矢本 大雪

陸奥湾の色して津軽の空澄める

青 森 白鳥 光雄

山を越え野を越え蜻蛉赤くなる

青 森 前田 良三

秋暑し目玉の乾く恐山

む つ 畑中とほる

いつか逝くこの秋晴をまな裏に

青 森 三浦 紫乃

白神と暮らす一生稲架を組む

平 川 西谷 是空

轆轤生むこけしの素肌秋うらら

む つ 高橋千夜湖

大根の輪切りの厚さほどの愛

弘 前 花田 晶子

◎天 位

茄子胡瓜西瓜唐黍盆来たる

青 森 布施 協一

【評】原則信仰せず、季語を五つも重ねた。収穫の喜び、亡き祖先と暮らす盆への思いが野菜にもっている。

◎秀 逸 (5句)

白塗りの幕引いてゆく村芝居

弘 前 笹原 郁子

秋暑し渚に乾ぶ藻塩草

む つ 永倉 みつ

手に顔に力集めて南瓜割る

十和田 大川 恵子

稲干すや真青なる空ひき寄せて

む つ 相馬 禮子

看護師の手の甲にメモ天使祭

弘 前 鈴木とまと

◎地 位

秋収め足洗ふ水あふれけり

板 柳 くどうひろこ

【評】水があふれる姿に、収穫の喜び、仕事が終わったという満足感がしっかり表れている。

特別選「当季雑詠」

芒手にどの道行くもわが生地

八戸 田村 正義

母今も束髪なりし吾亦紅

青森 田中フミエ

父母おはす闇の底よりちちろかな

八戸 佐々木雅翔

息ほどの風にこぼれて零余子かな

八戸 小林 凡石

新涼や皿に重ねる皿の音

八戸 田端 千鼓

大津軽ほしいままなる稲雀

青森 瀬川八百子

至福とは夜長のページ捲る音

八戸 黒田 長子

とろゝする手の大きさは母ゆずり

青森 中谷 恭子

抱き寄せて顔を埋めて稲を刈る

八戸 高橋 千恵

千空の生地や白鳥一穢なし

青森 橘川まもる

宿題「釣瓶落とし」

草野力丸氏選

◎推 薦 (5句)

通したき一徹釣瓶落としかな

青森 小野いるま

釣瓶落としだしぬけに遭ふとみ子の訃

五所川原 山内ひろ子

部活の子せかせるつるべ落としかな

十和田 下山 延子

釣瓶落とし海十方の染まりたる

弘前 小杉 郁子

門限を諭され釣瓶落としかな

むつ 戸川美重子

高橋 千恵 / 敦賀 恵子

釣瓶落とし一絵のブルーに執着す

弘前 花田 晶子

畑にまだ釣瓶落としの母の影

おいらせ 野村 英利

関 礼子 / 松宮 梗子

放牛の釣瓶落としへ咆哮す

八戸 小林 凡石

車座の崩れて釣瓶落としかな

青森 櫻庭 和浩

(以上、十二氏共同選)

一人には惜しくて釣瓶落としかな

五所川原 松宮 梗子

見届ける釣瓶落としの龍飛崎

八戸 工藤 祐子

羽根あらば釣瓶落としの止まり木に

五所川原 浜田 和幸

◎佳 作 (15句)

釣瓶落としはじまる五百羅漢堂

五所川原 櫛引 麗子

途中から釣瓶落としの五能線

青森 田中フミエ

釣瓶落とし吸ひとるもののある如し

五所川原 三橋 浩二

置き去りの玩具に釣瓶落としかな

八戸 高橋 千恵

野良帰り釣瓶落としに闇迫る

十和田 金澤 京子

釣瓶落とし新幹線の滑り込む

青森 村山 いう

手を振って釣瓶落としのホームかな

弘前 小田桐耕雲

待ち人の来ぬ間の釣瓶落としかな

青森 青木 規子

宿題「釣瓶落とし」

後藤岑生氏選

◎推 薦 (5句)

歡呼いま釣瓶落としに訝して

弘前 工藤乃里子

釣瓶落とし肩寄せあひて蟹の村

鮎ヶ沢 南 美智子

急がない余生に釣瓶落としかな

七戸 高田美津子

石積むや釣瓶落としの恐山

むつ 相馬 禮子

聞き役や釣瓶落としの音を聞く

青森 中谷 恭子

◎佳 作 (15句)

海峡の釣瓶落としや蝦夷の影

むつ 飯田 知克

釣瓶落とし海十方の染まりたる

弘前 小杉 郁子

釣瓶落としし水の匂ひの生まれくる

弘前 泉 風信子

野良帰り釣瓶落としに闇迫る

十和田 金澤 京子

けざやかにつるべ落としの海の声

八戸 田中 玲子

釣瓶落としかつと眼を剥く仁王像

弘前 小田桐素人

釣瓶落とし河口に逆る潮の色

むつ 高橋千夜湖

彩雲を連れゆく釣瓶落としかな

八戸 小野寺和子

下車二人釣瓶落としの無人駅

青森 山内 恵子

亡夫と見る釣瓶落としの十三湖

八戸 佐々木ツタ子

魂眠らせ釣瓶落としの太平洋

八戸 吉田千嘉子

放牛の釣瓶落としへ咆哮す

八戸 小林 凡石

釣瓶落とし老松の影奪いたる

青森 福井千恵子

立話釣瓶落としに声消され

青森 古賀 雨苑

旅愁なほ釣瓶落としの竜飛崎

青森 長島 喜美

畑中とほる氏選

◎推 薦 (5句)

海峡の釣瓶落としや蝦夷の影

むつ 飯田 知克

下北に釣瓶落としの会津の地

青森 新山 魏一

釣瓶落としかつと眼を剥く仁王像

弘前 小田桐素人

畑にまだ釣瓶落としの母の影

おいらせ 野村 英利

石積むや釣瓶落としの恐山

むつ 相馬 禮子

◎佳 作 (15句)

釣瓶落とし鉄橋渡る五能線

弘前 橘 すなお

霊山の釣瓶落としに掌を合はす

青森 白鳥 光雄

釣瓶落とし時に急ぐ牛の声

藤崎 清水 雪江

背後より釣瓶落としや下山急ぐ

十和田 大川 恵子

悪童の声消え釣瓶落しかな

五所川原

富士とし信

西谷是空氏選

◎推 薦 (5句)

下車二人釣瓶落しの無人駅

青森

山内 恵子

つるべ落とし座礁船黒き塊に

深浦

蒲田 吟竜

筆おくや釣瓶落しの写経堂

むつ

井手上省子

漁火や釣瓶落しの峠より

むつ

立花 夕海

ドクターへり釣瓶落しを離陸せり

十和田

佃 正子

積荷終え釣瓶落しの船出かな

青森

千葉 禮子

釣瓶落し辻に小さき観音碑

青森

樋口 栄子

つるべ落とし豊漁の船まつしぐら

青森

齊藤 君子

畑にまだ釣瓶落しの母の影

おいらせ

野村 英利

釣瓶落しポストに封書落つる音

青森

阿部 康子

釣瓶落しポストに封書落つる音

青森

阿部 康子

悪童の声消え釣瓶落しかな

五所川原

富士とし信

畑に人まだゐて釣瓶落しかな

八戸

土井 三乙

釣瓶落し訪はねば母の子を忘る

板柳

くどうひろこ

沖に朱を残して釣瓶落しかな

五所川原

成田みどり

釣瓶落し高炉の消えし鉄の街

八戸

高橋 秀東

釣瓶落し用事残して帰りけり

弘前

畠山 容子

釣瓶落し登り窯から火が噴きて

三戸

栗山 朗子

釣瓶落とし流離を思ふ影ひとつ

弘前

矢本 大雪

置き去りの玩具に釣瓶落しかな

八戸

高橋 千恵

足急かす釣瓶落しの峠かな

青森

宮川 暢子

つるべ落としさあ一献と酌み交す

弘前

葛西 小櫻

石積むや釣瓶落しの恐山

むつ

相馬 禮子

ほうほうと釣瓶落しの牛を呼ぶ

五戸

鈴木志美恵

釣瓶落し井戸端会議散会す

青森

澁田 紀子

釣瓶落し新幹線の滑り込む

青森

村山 いう

城曳屋つるべ落しのまつさなか

青森

瀬川八百子

書閉ぢたり釣瓶落しの薄明に

十和田

村松 圭治

ほうほうと釣瓶落しの牛を呼ぶ

五戸

鈴木志美恵

宿題「釣瓶落し」

宿題「釣瓶落し」

三ヶ森青雲氏選

◎推 薦 (5句)

靈山の釣瓶落しに掌を合はす

青森 白鳥 光雄

肉を買ひ葱買ひ釣瓶落しかな

青森 前田 良三

釣瓶落しかつと眼を剥く仁王像

弘前 小田桐素人

畑に人まだゐて釣瓶落しかな

八戸 土井 三乙

お岩木の光背釣瓶落しかな

青森 丹場 節子

夕映えを残して釣瓶落しかな

青森 山本もとい

けざやかにつるべ落しの海の声

八戸 田中 玲子

鐘の音のひろがり釣瓶落しかな

八戸 山下 節子

畑にまだ釣瓶落しの母の影

おいらせ 野村 英利

海猫群るる釣瓶落しとの岩場かな

鶴田 藤本 芳昭

釣瓶落しポストに封書落つる音

青森 阿部 康子

結願の釣瓶落しとなりにつけり

八戸 佐々木雅翔

置き去りの玩具に釣瓶落しかな

八戸 高橋 千恵

光りつつ釣瓶落しの日が海へ

八戸 田端 千鼓

大風釣瓶落しの日本海

八戸 木附沢麦青

旅愁なほ釣瓶落しの竜飛崎

青森 長島 喜美

吉田紅一氏選

◎推 薦 (5句)

書に籠る釣瓶落しの影法師

八戸 西川 無行

身ほとりのつるべ落しに急かさるる

弘前 藤田 豊子

妻看取る病舎に釣瓶落しかな

青森 牧 ひろし

漁火や釣瓶落しの峠より

むつ 立花 夕海

海鳴りへ釣瓶落しの竜飛崎

八戸 三ヶ森青雲

◎佳 作 (15句)

白波に釣瓶落しの龍飛崎

弘前 笹原 郁子

手を振って釣瓶落しのホームかな

弘前 小田桐耕雲

病窓の釣瓶落しの今日もまた

青森 柏原 昭三

夕映えを残して釣瓶落しかな

青森 山本もとい

◎佳 作 (15句)

釣瓶落し鉄橋渡る五能線

弘前 橘 すなお

白波に釣瓶落しの龍飛崎

弘前 笹原 郁子

鯉跳ねて釣瓶落しの入江かな

青森 中島 五郎

ぼんぼん船釣瓶落しの煙を噴く

つがる 石田かつら

宿題「釣瓶落し」

釣瓶落し鳥の高鳴き帰らねば

五所川原

齋藤今日子

高橋千恵氏選

釣瓶落し肩寄せあひて蟹の村

鮎ヶ沢

南 美智子

北国の釣瓶落しの港かな

青 森

杉田 美峰

通したき一徹釣瓶落しかな

青 森

小野いるま

ドクターへり釣瓶落しを離陸せり

十和田

佃 正子

釣瓶落し埒に急ぐ牛の声

藤 崎

清水 雪江

筆おくや釣瓶落しの写経堂

む つ

井手上省子

漁り火の釣瓶落しに沖燃ゆる

む つ

永倉 みつ

鐘の音のひろがり釣瓶落しかな

八 戸

山下 節子

畑にまだ釣瓶落しの母の影

おいらせ

野村 英利

明日ありと釣瓶落しに従へり

青 森

米塚 みゑ

ペダル踏み釣瓶落しの町を行く

弘 前

藤田 正子

光りつつ釣瓶落しの日が海へ

八 戸

田端 千鼓

車座の崩れて釣瓶落しかな

青 森

櫻庭 和浩

畑にまだ釣瓶落しの母の影

おいらせ

野村 英利

お岩木の釣瓶落しとなりけり

青 森

千葉みちる

水音のつるべ落しに紺屋町

青 森

高森ましら

下車二人釣瓶落しの無人駅

青 森

山内 恵子

つるべ落し豊漁の船まつしぐら

青 森

齊藤 君子

畑に人まだゐる釣瓶落しかな

八 戸

土井 三乙

書に籠る釣瓶落しの影法師

八 戸

西川 無行

石積むや釣瓶落しの恐山

む つ

相馬 禮子

放牛の釣瓶落しへ咆哮す

八 戸

小林 凡石

海峡の釣瓶落しや蝦夷の影

む つ

飯田 知克

かくれんぼする子に釣瓶落しかな

青 森

浜田しげる

お岩木の光背釣瓶落しかな

青 森

丹場 節子

釣瓶落し海十方の染まりたる

弘 前

小杉 郁子

子のもとへ釣瓶落しのペダル漕ぐ

弘 前

葛西 栄子

旅愁なほ釣瓶落しの竜飛崎

青 森

長島 喜美

霊山の釣瓶落しに掌を合はす

青 森

白鳥 光雄

魚焼く香つるべおとしの町角に

弘 前

澤野 禾穎

宿題「釣瓶落し」

敦賀恵子氏選

◎推 薦 (5句)

釣瓶落し吸ひとるもののある如し

五所川原 三橋 浩二

釣瓶落し訪はねば母の子を忘る

板 柳 くどうひろこ

急がない余生に釣瓶落しかな

七 戸 高田美津子

放牛の釣瓶落しへ咆哮す

八 戸 小林 凡石

電柱も私もひとりつるべおとし

弘 前 戸澤 優子

◎佳 作 (15句)

つるべ落し座礁船黒き塊に

深 浦 蒲田 吟竜

釣瓶落とし流離を思ふ影ひとつ

弘 前 矢本 大雪

書閉ぢたり釣瓶落しの薄明に

十和田 村松 圭治

とみ子の死日に日に釣瓶落しかな

青 森 蝦名 石蔵

釣瓶落し砂浜長き日本海

む つ 畑中とほる

釣瓶落し牧から下る牛の群

む つ 萬年 和子

釣瓶落しだしぬけに遭ふとみ子の計

五所川原 山内ひろ子

背後より釣瓶落しや下山急く

十和田 大川 恵子

畑にまだ釣瓶落しの母の影

おいらせ 野村 英利

騒がしき釣瓶落しの鶏舎なり

青 森 秋元エミ子

畑に人まだゐて釣瓶落しかな

八 戸 土井 三乙

置き去りの玩具に釣瓶落しかな

八 戸 高橋 千恵

足急かす釣瓶落しの峠かな

青 森 宮川 暢子

釣瓶落し老松の影奪いたる

青 森 福井千恵子

ほうほうと釣瓶落しの牛を呼ぶ

五 戸 鈴木志美恵

関礼子氏選

◎推 薦 (5句)

霊山の釣瓶落しに掌を合はす

青 森 白鳥 光雄

肉を買ひ葱買ひ釣瓶落しかな

青 森 前田 良三

固唾のむ問の間に釣瓶落しかな

深 浦 草野 力丸

釣瓶落し墨絵の中に朱色消ゆ

青 森 岡部 文子

お岩木の光背釣瓶落しかな

青 森 丹場 節子

◎佳 作 (15句)

海峡の釣瓶落しや蝦夷の影

む つ 飯田 知克

釣瓶落し海十方の染まりたる

弘 前 小杉 郁子

野良帰り釣瓶落しに闇迫る

十和田 金澤 京子

病窓の釣瓶落しの今日もまた

青 森 柏原 昭三

宿題「釣瓶落し」

夕映えを残して釣瓶落しかな

青 森 山本もとい

松宮梗子氏選

◎推 薦(5句)

ドクターヘリ釣瓶落しを離陸せり

十和田 佃 正子

固唾のむ間の間に釣瓶落しかな

深 浦 草野 力丸

釣瓶落し牧から下る牛の群

む つ 萬年 和子

釣瓶落し肩寄せあひて蟹の村

鱒ヶ沢 南 美智子

燈台の影のすくと釣瓶落し

大 間 木村泰佳子

釣瓶落しかつと眼を剥く仁王像

弘 前 小田桐素人

列車快走釣瓶落しの海に沿ひ

青 森 七戸富美子

部活の子せかせるつるべ落しかな

十和田 下山 延子

足湯して釣瓶落しの八甲田

八 戸 古川 恵理

待ち人の来ぬ間の釣瓶落しかな

青 森 青木 規子

畑にまだ釣瓶落しの母の影

おいらせ 野村 英利

釣瓶落し鴉も暗急ぎけり

弘 前 千葉 新一

草野球敗れて釣瓶落しかな

青 森 竹村 俊郎

釣瓶落し昔こそそろそろとつちばれ

青 森 小野 寿子

下車二人釣瓶落しの無人駅

青 森 山内 恵子

アナウンス釣瓶落しの町中へ

弘 前 成田 則子

釣瓶落し訪はねば母の子を忘る

板 柳 くどうひろこ

鐘の音のひろがり釣瓶落しかな

八 戸 山下 節子

魚焼く香つるべおとしの町角に

弘 前 澤野 禾穎

ほうほうと釣瓶落しの牛を呼ぶ

五 戸 鈴木志美恵

列車快走釣瓶落しの海に沿ひ

青 森 七戸富美子

旅愁なほ釣瓶落しの竜飛崎

青 森 長島 喜美

釣瓶落しだしぬけに遭ふとみ子の訃

五所川原 山内ひろ子

投函のぼりと釣瓶落しかな

青 森 能登谷明子

悪童の声消え釣瓶落しかな

五所川原 富士とし信

亡夫と見る釣瓶落しの十三湖

八 戸 佐々木ツタ子

畑に人まだゐて釣瓶落しかな

八 戸 土井 三乙

釣瓶落し高炉の消えし鉄の街

八 戸 高橋 秀東

釣瓶落し鴉も暗急ぎけり

弘 前 千葉 新一

子のもとへ釣瓶落しのペダル漕ぐ

弘 前 葛西 栄子

母の影釣瓶落しの畑道

青 森 黒滝 綾子

魚焼く香つるべおとしの町角に

弘 前 澤野 禾穎

旅愁なほ釣瓶落しの竜飛崎

青 森 長島 喜美

山下節子氏選

◎推 薦 (5句)

釣瓶落し海十方の染まりたる

弘前 小杉 郁子

妻看取る病舎に釣瓶落しかな

青森 牧 ひろし

明日ありと釣瓶落しに従へり

青森 米塚 みゑ

つるべ落し豊漁の船まつしぐら

青森 齊藤 君子

急がない余生に釣瓶落しかな

七戸 高田美津子

◎佳 作 (15句)

通したき一徹釣瓶落しかな

青森 小野いるま

つるべ落し座礁船黒き塊に

深浦 蒲田 吟竜

霊山の釣瓶落しに掌を合はす

青森 白鳥 光雄

釣瓶落し埒に急ぐ牛の声

藤崎 清水 雪江

金婚のふたりのつるべ落しかな

弘前 大瀬 響史

釣瓶落しかつと眼を剥く仁王像

弘前 小田桐素人

ペタル踏み釣瓶落しの町を行く

弘前 藤田 正子

列車快走釣瓶落しの海に沿ひ

青森 七戸富美子

太棹のただんと釣瓶落としかな

十和田 日野口 晃

釣瓶落し河口に逆る潮の色

むつ 高橋千夜湖

彩雲を連れゆく釣瓶落しかな

八戸 小野寺和子

海猫群るる釣瓶落し時の岩場かな

鶴田 藤本 芳昭

大風に釣瓶落しの日本海

八戸 木附沢麦青

ほうほうと釣瓶落しの牛を呼ぶ

五戸 鈴木志美恵

旅愁なほ釣瓶落しの竜飛崎

青森 長島 喜美

吉田千嘉子氏選

◎推 薦 (5句)

霊山の釣瓶落しに掌を合はす

青森 白鳥 光雄

ドクターへり釣瓶落しを離陸せり

十和田 佃 正子

置き去りの玩具に釣瓶落しかな

八戸 高橋 千恵

釣瓶落し新幹線の滑り込む

青森 村山 いう

魚焼く香つるべおとしの町角に

弘前 澤野 禾穎

◎佳 作 (15句)

歡樂街釣瓶落しの灯を急ぐ

むつ 畑中 月穂

釣瓶落し肩寄せあひて蟹の村

鱈ヶ沢 南 美智子

釣瓶落し埒に急ぐ牛の声

藤崎 清水 雪江

釣瓶落し砂浜長き日本海

むつ 畑中とほる

宿題「釣瓶落し」

釣瓶落したちまちつつむ馬の貌

青 森 山口せつ子

釣瓶落しかつと眼を剥く仁王像

弘 前 小田桐素人

背後より釣瓶落しや下山急く

十和田 大川 恵子

天守消ゆ釣瓶落しの下乗橋

青 森 太田 直樹

畑にまだ釣瓶落しの母の影

おいらせ 野村 英利

草野球敗れて釣瓶落しかな

青 森 竹村 俊郎

下車二人釣瓶落しの無人駅

青 森 山内 恵子

つるべ落し豊漁の船まつしぐら

青 森 齊藤 君子

釣瓶落しの千空句碑に誰か佇つ

八 戸 田村 正義

急がない余生に釣瓶落しかな

七 戸 高田美津子

かくれんぼする子に釣瓶落しかな

青 森 浜田しげる

席題A 「うそ寒」

木附沢麦青氏選

小野寿子氏選

うそ寒の貧乏ゆすり諫めらる

青森 米塚みゑ

うそ寒や仏壇の灯継ぎ足して

青森 下山みのる

髭剃りの刃に光ありうそ寒し

青森 浜田しげる

うそ寒や礁を越ゆる波の修羅

青森 田中フミエ

手の甲の動脈浮き出うそ寒し

八戸 小笠原聖子

そぞろ寒酒なき夕餉にも馴れて

八戸 野沢しの武

木附沢麦青氏選

◎天位

うそ寒や漁師鉢巻き首に巻く

むつ 萬年和子

◎佳作 (15句)

書に倦むは老いの兆しやうそ寒し

八戸 西川 無行

煙上ぐ津軽の野面うそ寒し

五所川原 松宮 梗子

◎地位

能面の裏の目の穴うそ寒し

十和田 日野口 晃

気にかかる枕の凹みうそ寒し

弘前 小杉 郁子

一見す竪穴住居うそ寒し

青森 長島 喜美

我が心妻によまれてうそ寒し

青森 前田 良三

約束を果たしてどこかうそ寒し

弘前 秋山 範子

うそ寒や仮の座につく天守閣

青森 塙 ひさ

煙草断ち酒も断つ夫うそ寒し

藤崎 清水 雪江

うそ寒に女々しさ温させめぎ合う

青森 土田 雅子

◎秀逸 (5句)

うそ寒やコトリと部屋のどこか鳴る

青森 中島 五郎

痴呆とや物忘れとやうそ寒し

青森 三浦 紫乃

眼無き魚干されるてうそ寒し

弘前 対馬 迪女

うそ寒やこころ横向き後向き

青森 斎藤 修子

小野寿子氏選

◎天 位

うそ寒や山羊の乳房の桃色に

三戸 栗山 朗子

◎地 位

うそ寒や厨の湯気の柔かし

青森 鹿内 啓子

◎人 位

煙上ぐ津軽の野面うそ寒し

五所川原 松宮 梗子

◎秀 逸 (5句)

うそ寒の空の高さにある空虚

青森 池野 實

売られゆく牛と目があひうそ寒し

むつ 畑中とほる

うそ寒や飯ふつくらと炊き上がる

青森 千葉 禮子

うそ寒や米研ぐ今朝の水まろし

むつ 立花 夕海

番小屋に電球一つうそ寒き

大間 金田一子

◎佳 作 (15句)

我が心妻によまれてうそ寒し

青森 前田 良三

うそ寒や粥煮る音のほかになく

青森 高木 良子

うそ寒や弥陀仏照らす燭一つ

むつ 永倉 みつ

うそ寒や便りはいつも短くて

五所川原 福士とし信

はらからの続く黄泉路やうそ寒し

八戸 工藤 祐子

うそ寒や捨猫の声荒々し

青森 築館 秋水

うそ寒や無言で見仰ぐ志功の絵

青森 阿部 康子

阿羅漢の謎めく笑みやうそ寒し

七戸 高田美津子

うそ寒し児を抱きしめてバスを待つ

青森 岩瀬 テイ

岬仏に小石三つ積みうそ寒し

八戸 高橋 千恵

眼つむりて老猿黙すそぞろ寒

青森 島田よう子

うそ寒や独りの暮らし慣れてきし

弘前 須藤 育子

うそ寒し聞き返すこと多くなり

青森 中谷 恭子

約束を果たしてどこかうそ寒し

弘前 秋山 範子

うそ寒の告知の椅子に浅く掛け

弘前 藤井 芳子

席題B 「鶴鶴」

石叩き川の中州のよく変る

青森 佐々木一湖

歳月の染みし慰霊碑石たたき

青森 能登谷明子

古里に名水ふたつ石たたき

十和田 佐々木寿子

佳き色の石を選びて石叩き

十和田 日野口晃

木村 秋湖 氏選

対馬 迪女 氏選

鶴鶴の禪門の石叩きをり

青森 岩瀬 テイ

石庭を知り尽くしたる黄鶴鶴

弘前 対馬 迪女

木村秋湖氏選

◎天 位

合流で変る川の名石たたき

八戸 西川 無行

◎佳 作(15句)

鶴鶴の叩くをやめし何かある

青森 小野 寿子

鶴鶴や吾はゆるゆる老いたしと

八戸 工藤 祐子

◎地 位

日溜の小石小石と石叩き

青森 黒滝 綾子

鶴鶴の去りて静かな川原かな

むつ 飯田 知克

鶴鶴の光を切りて石渡る

弘前 秋山 範子

◎人 位

鶴鶴に水美しく湾曲す

弘前 吉田 紅一

鶴鶴や我も踏ん張る高齢者

弘前 成田 則子

鶴鶴の尾は波に揺れ風に揺れ

青森 鹿内 啓子

◎秀 逸(5句)

鶴鶴の川の曲りに鳴き走り

青森 池野 實

鶴鶴や流れの早き川となる

青森 柏原 昭三

鶴鶴や良き石並ぶ岩木川

青森 明才地禮子

じつとしておれぬ母なり石たたき

五所川原 工藤登詩子

対馬迪女氏選

◎天 位

音信のほどよき遠さ石叩き

十和田 比内 順子

◎地 位

鶺鴒の禪門の石叩きをり

青森 岩瀬 ティ

◎人 位

鶺鴒に水美しく湾曲す

弘前 吉田 紅一

◎秀 逸 (5句)

考へてつと走りて鶺鴒飛ぶ

深浦 草野 力丸

曇天をこぼれて野辺へ鶺鴒

青森 蝦名 石蔵

鶺鴒やまだ核心にふれずゐる

青森 山口せつ子

歳月の染みし慰霊碑石たたき

青森 能登谷明子

城跡の土塁の崩れ石叩

八戸 高橋 秀東

◎佳 作 (15句)

鶺鴒の叩くをやめし何かある

青森 小野 寿子

鶺鴒の叩きつくして翔びたてり

青森 石戸 キコ

石叩きどんだん早くなる入陽

平川 後藤 朋子

鶺鴒や案内人は進めよと

弘前 葛西 小櫻

鶺鴒の失せて早瀬の変らざる

青森 柏原 昭三

母の座す石をよろこび鶺鴒来

十和田 佃 正子

じつとしておれぬ母なり石たたき

五所川原 工藤登詩子

庭叩なすべきことを簡条書

五所川原 成田みどり

鶺鴒の叩き疲れし一羽かな

鶴田 藤本 則

鶺鴒や川きらきらとよどみなし

弘前 千葉 新一

石叩き時には黙すことのあり

青森 島田よう子

鶺鴒や記憶の一つよみがえり

青森 福井千恵子

この爺をあやしに來たか石たたき

八戸 郡川 宏一

あたらしき墓に色おく石たたき

平川 丹野 慶子

鶺鴒の翔つて吊橋揺るるかな

大間 金田一子

席題C 「蓑虫」

徳才子青良氏選

金田一子氏選

蓑虫や笑はぬ老人増やしたり

青森 三浦 紫乃

蓑虫や男に大きな喉仏

五所川原 成田みどり

蓑虫や日毎紫増す岩木

青森 布施 協一

蓑虫の下がる庭木や古書を読む

鶴田 藤本 芳昭

蓑虫や生涯表札掛けぬなり

三沢 阿久津凍河

蓑虫鳴くここは志功の生誕地

八戸 佐々木ツタ子

徳才子青良氏選

◎天 位

蓑虫の姿で虹を描き続け

青森 土田 雅子

◎佳 作(15句)

蓑虫や何まともえども海の色

弘前 矢本 大雪

蓑虫に重なつてくる山の影

八戸 田端 千鼓

◎地 位

蓑虫の枝ごと揺れる分水嶺

青森 櫻庭 和浩

蓑虫の糸に感性あふれけり

深浦 草野 力丸

蓑虫の本籍在所糸一本

弘前 葛西 栄子

◎人 位

蓑虫のひとつ見しより道狭し

青森 木村 秋湖

空き屋多き村に蓑虫泣き始む

青森 大澤 映城

蓑虫やおカリナ一つしのばせて

八戸 黒田 長子

◎秀 逸(5句)

蓑虫や帰る家ある人の群れ

弘前 泉 風信子

鬼の子や仁王は人に近き像

青森 三橋 聖

蓑虫が鳴けば雀が手を叩く

青森 千葉 芳醇

蓑虫や残る城址の隠し井戸

おいらせ 野村 英利

金田一一子氏選

◎天位

蓑虫の糸に感性あふれけり

深浦 草野 力丸

◎地位

蓑虫の牛鳴く小屋の軒に揺る

むつ 飯田 知克

◎人位

蓑虫の極楽浄土蓑の中

八戸 西川 無行

◎秀逸(5句)

蓑虫の顔出してゐる真昼かな

むつ 畑中とほる

空き屋多き村に蓑虫泣き始む

青森 大澤 映城

蓑虫の垂れる小枝の暮れ残る

むつ 万年 和子

浜風を辟けて蓑虫宮住ひ

大間 木村泰佳子

蓑虫やだまし絵のごと風にゆれ

十和田 小林 五月

◎佳作(15句)

鬼の子の自由と孤独量りをり

平川 後藤 朋子

蓑虫や自我とは殻を造ること

青森 前田 良三

蓑虫や帰る家ある人の群れ

弘前 泉 風信子

蓑虫や宙ぶらりんという自由

青森 岡部 文子

みの虫や親は選べぬ団子鼻

弘前 大瀬 響史

身を托す太き糸ほし親無子

むつ 井手上省子

蓑虫の糸一本の孤独かな

青森 七戸富美子

明日あるを信じ蓑虫風の中

むつ 永倉 みつ

蓑虫の揺れて峡の灯昏るるまま

野辺地 後藤 瑞江

蓑虫の羨ましとも憐れとも

青森 米塚 みゑ

蓑虫や人のうつほど深からず

十和田 比内 順子

蓑虫の飢ゑていつもの孤独なり

青森 阿部 康子

蓑虫のひとつ見しより道狭し

青森 木村 秋湖

蓑虫の軽くて重き命かな

青森 浜田しげる

蓑虫のぶらり心はどこにあり

弘前 戸澤 優子

